

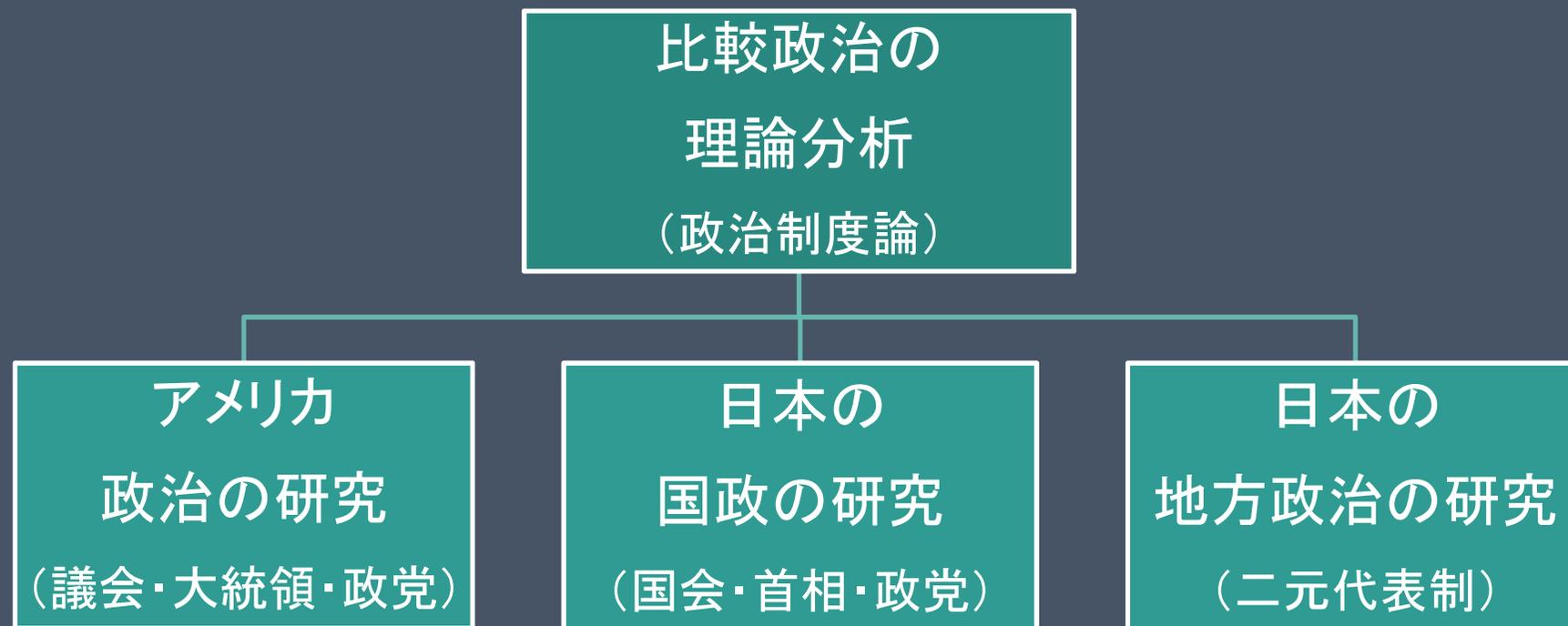
二元代表制は 何をもたらすのか

—選挙制度を含めた効果を考える—

待鳥 聡史(京都大学)

2019年4月26日

私は何者か？： 研究上の関心



広い意味での専攻は、比較政治論
とくに政治制度の効果に関心

日本の地方政治制度

- **議会の選挙制度**

都道府県は小選挙区と中選挙区の混合

市町村は大選挙区制

区割り単位は原則的に自治体ごと

- **二元代表制**

首長と議会が別個に公選される

首長が権限と資源の双方において優位

有権者の関心も圧倒的に首長に

二元代表制と議会選挙制度

- 日本の地方自治体が採用する二元代表制は、比較政治学的には大統領制に属する
- 大統領制のあり方の最大の鍵は、議会での多数派形成
- 多数派形成に決定的影響を及ぼすのが、議会の選挙制度
- 無所属で当選できる場合、小政党が比較的容易に存続できる場合、多数派形成は原理原則を欠くようになる

他の組み合わせとの比較

- 選挙制度に規定される政党のあり方を考慮すると、以下のようなマトリックスができる

	政党が少なく、かつ党内がまとまっている (e.g. 小選挙区制)	政党が多く、かつ党内がまとまっていない (e.g. 大選挙区制)
議院内閣制	強い政党間対立 (与野党が激しく対立)	弱い政党間対立 (与野党関係は協調的)
大統領制 (二元代表制)	政党間対立と 部門間対立	部門間の棲み分け

地方政治における部門間関係

- 二元代表制である以上、権力分立制としての基本構造は作用

首長は予算をはじめ議案を通す必要

しかも、議会会派は一体性が弱い

→ 相乗りが増えるのは多数派形成のため

- 議会は個別的な影響力行使

政党や会派としての大きな政策の方向性を打ち出すよりも「箇所付け」や「口利き」に向かいがち → 首長との棲み分け

今日の地方政治の課題

- 部門間棲み分けの限界

首長＝マクロ、議会＝ミクロという棲み分け

財政制約が大きくなると、相互介入に

しかし、相手の思考法に慣れず不毛な対立

e.g. 名古屋市、阿久根市

- 政党の一体性の弱さ

議会が体系的な政策を打ち出せない一因

首長が独走してしまう危険性

課題への対応(1)

- 棲み分けから建設的競争関係へ

首長がミクロに関与するのは比較的容易
そもそも官僚はミクロも扱っている

議会多数派をいかにマクロ志向にするか？

→ 権限強化(予算提案権を与えるなど)
政策決定に責任を負わせる
体系的政策で政党間の競争

地方議会の政党化は重要な第一歩

課題への対応(2)

- 地方議会の政党化をいかに進めるか

無所属・院内会派を減らすことと、政党がまとまることの両方が必要

具体的な手段としての選挙制度改革

地方単独で考えれば比例代表制を、中央との連関も考えれば、小選挙区制(か、小選挙区比例代表並立制)

総務省「地方議会・議員に関する研究会」報告(2017)では、大選挙区制限連記制を提案